

《シリーズ「私の森語り」》

シリーズ
「私の森語り」
もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「森林から考えるモノづくり」



株式会社オークヴィレッジ
緑の国企画実行委員長
森たくみ塾塾長
小本曾賢一

■自己紹介

一九九一年、木工塾・森林たくみ塾入塾。二〇〇二年、株式会社たくみ塾に入社し、二〇二〇年、塾長を拝命。二〇一八年より、オークヴィレッジ株式会社制作部を兼任。「森と暮らしをつなげる」をテーマに、森や地方の持つ可能性を引き出すのがライフワーク。

■活動内容

「お椀から建物まで」「百年かかって育った木は、百年使えるものに」「子ども一人、ドングリ一粒」



パルプや燃料にしてしまうには勿体ない宝の山

という二つの理念を事業の礎として、私たちは活動してきました。この八月にオークヴィレッジ株式会社が出来五〇周年を迎えることができましたのも、私たちの活動に共感して支えていただいた皆さまのおかげです。
創業以来、私たちは国産広葉樹の活用にごこだわったモノづくりをしてきましたが、用材として市場に出るのは一割に足りません。大

半はパルプやバイオマス燃料となってしまう現状を打開しようと、この十年は、地方の林業事業者と連携した未利用材の活用に取り組んでいます。

小径木や曲がり材など規格外広葉樹の活用プロジェクト・Neo Woods（岐阜県本巣市もとすしの有限会社根尾開発、岐阜県高山市たかやましの株式会社カネモクとの協働で行っている）を皮切りに、連携協定を結ぶ群馬県みなかみ町とは、伐り出した広葉樹をほぼ全量買い取ることで、自伐林業家の経営の安定化にも寄与しています。他にも、新たな取り組みが、目下進行中です。



小径木のみなかみ材を随所に用いたMori:to（モリート）
(mori+hitto) チェア

また、カーボンニュートラルの二〇二四年度達成を目指して、社有林の面積の拡大を進めています。現在一〇鈔ある社有林では、当社の会員組織である「シルヴァ

ンクラブ」の会員さんたちと社員が一緒になって森づくりの活動を行っています。「伐って使う」ステージにあるこの森の木を使っ

■メッセージ



曲がった木も、枝葉までをも余すことなく活用を目指したいものです。

森林から考えるモノづくり。その先に見据えるのは、木の文化を中心に据えた循環型社会の実現です。

百年までの折り返し地点に立つ私たちの、これからの取り組みにも、ぜひ注目してください。

○連絡先

オークヴィレッジ株式会社
岐阜県高山市清見町牧ヶ洞

846

電話 / 0577-6812244

https://oakv.co.jp

